秋分過ぎ寒露に向かう頃

園庭の木々の変化、例えば葉の色づきや落葉、あるいは毛虫の発生時期を見て昨年はどうだったかと確認することはよくありますが、昨年や今までにはなかったことがあったり、時期が大幅に違っていたりすることがあることに気づきます。「命の危険がある暑さ」と猛暑が続く夏を過ごす中で、樹木も生き物も「変化」をしているのだと感じ「唯一生き残ることができるのは変化できるものである」というダーウィンが言ったとされる言葉を思い出しました。レールに乗っかるのではなく、変化の激しい時代を生きていくにはある意味 AI とパートナーになりながらも、人間だからこその力を付け行動に移していくことが大事だと感じたりします。子どもたちは日々多くの体験をする中で共感力、コミュニケーション力、というあらゆる人間力を育んでいます。壁にぶつかれば乗り越えようとしています。その姿は実に頼もしく力強さを感じます。秋の成長も楽しみでなりません。

例年通り本園の教育活動に関する保護者アンケートをまもなく実施します。お忙しい中ですがご協力よろしくお願いいたします。

大幼

大分大学教育学部附属幼稚園

令和７年度
園長だより
No９
R7 年9月29日

大分大学吹奏楽部の演奏会が 26 日（金）にありました。楽器体験もありました。生の演奏は子どもの心に響いたことでしょう。

読み聞かせをして下さっている甲斐さんから絵本を頂きました。
１０冊もです。中には子どもたちが大好きな「わにわにシリーズ」もあり、子どもたちが目を輝かしながら絵本を読む姿が目に浮かびます。他には「とべ！ちいさいプロペラき」「あむ」そして「こぶたのピクルス」の童話シリーズもあります。絵本の読み聞かせのコツを最初にうかがったことがありますが、甲斐さんは「温かさ」と教えてくださいました。じんわりと心にしみわたっていく「温かみ」は、確かに毎回のよみきかせの空間に充満しています。
甲斐さん、ありがとうございました。大切に読みます。

９月も終わりになります。連休もあり、残暑厳しい時もあり、なかなかリズムができなかったかもしれませんが、どの年齢も１ 学期より友だちとの関りが多くなって遊び込んでいます。年長さんは「なかよし遊び（異年齢交流）」で、みんなが楽しめるにはどうすればいいかと、いつも話し合い（みんな会議）をするようにもなりました。それはそれは素晴らしい話し合いです。また、外に黒板の掲示板を設置して、子どもたちがお知らせしたいことを書きこむようにもしています。

10 月は 11 日に保育研究協議会、25 日に運動会と土曜日の登園が続き、多くの方々に子どもたちの様子を見ていただく機会があります。子どもたちの成長を喜び実り多き秋になればと願います。

様々な所でご協力をお願いすると思いますが、よろしくお願いします。